

介護サービスにおけるテクノロジーの受容性には何の関係しているか？

三輪 洋靖・渡辺 健太郎

サービス価値拡張研究チーム

研究背景

■ 介護サービスにおける課題

- 高齢化率の増加(2021年に28.9%)と労働者人口の減少により, 介護人材の不足が社会問題となっている
- 持続的なサービス提供のため, ロボットやIT等, 介護支援テクノロジーの活用, 生産性の向上が期待されている
- 様々な介護支援テクノロジーの開発が進んでいるが, 普及率は低く, テクノロジーが活用されていない

■ 研究目的

- 介護支援テクノロジーの活用には, テクノロジーに対する受容性が不可欠ではないか?
- 受容性に影響している要因を検討する

意識調査

■ 調査方法

- 国内の中高年者4,457名を対象としたインターネット調査

■ 質問項目

- 10種類の介助(入浴, 着替え, 排泄, 移動, 食事, 服薬, お金の管理, 見守り・安否確認, ケアプランの作成・管理, リハビリ・脳トレ)に対するテクノロジーの利用意向
- 3種類の既存テクノロジーに対する利用経験と信頼
- 個人属性



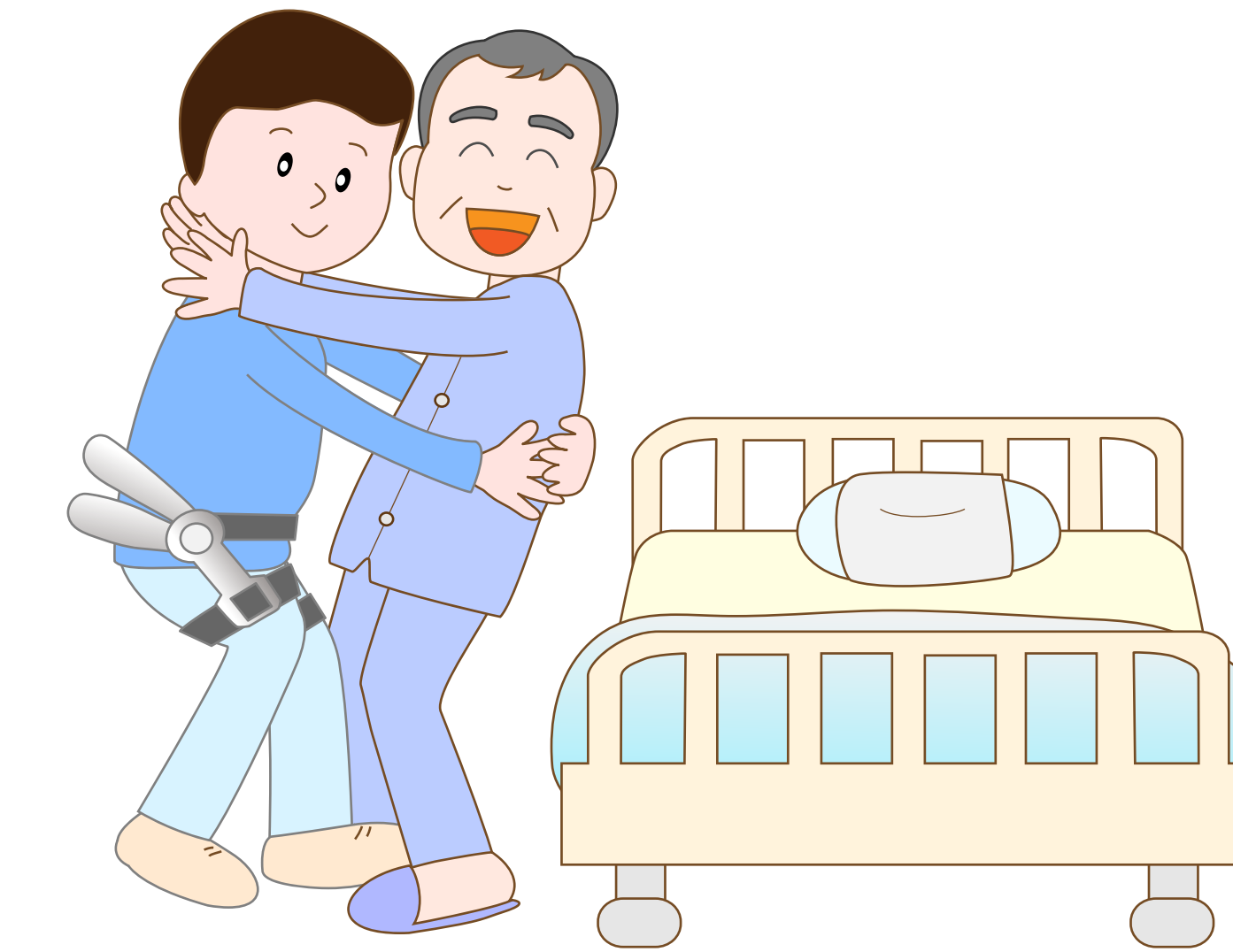
調査結果

■ テクノロジーの受容性得点

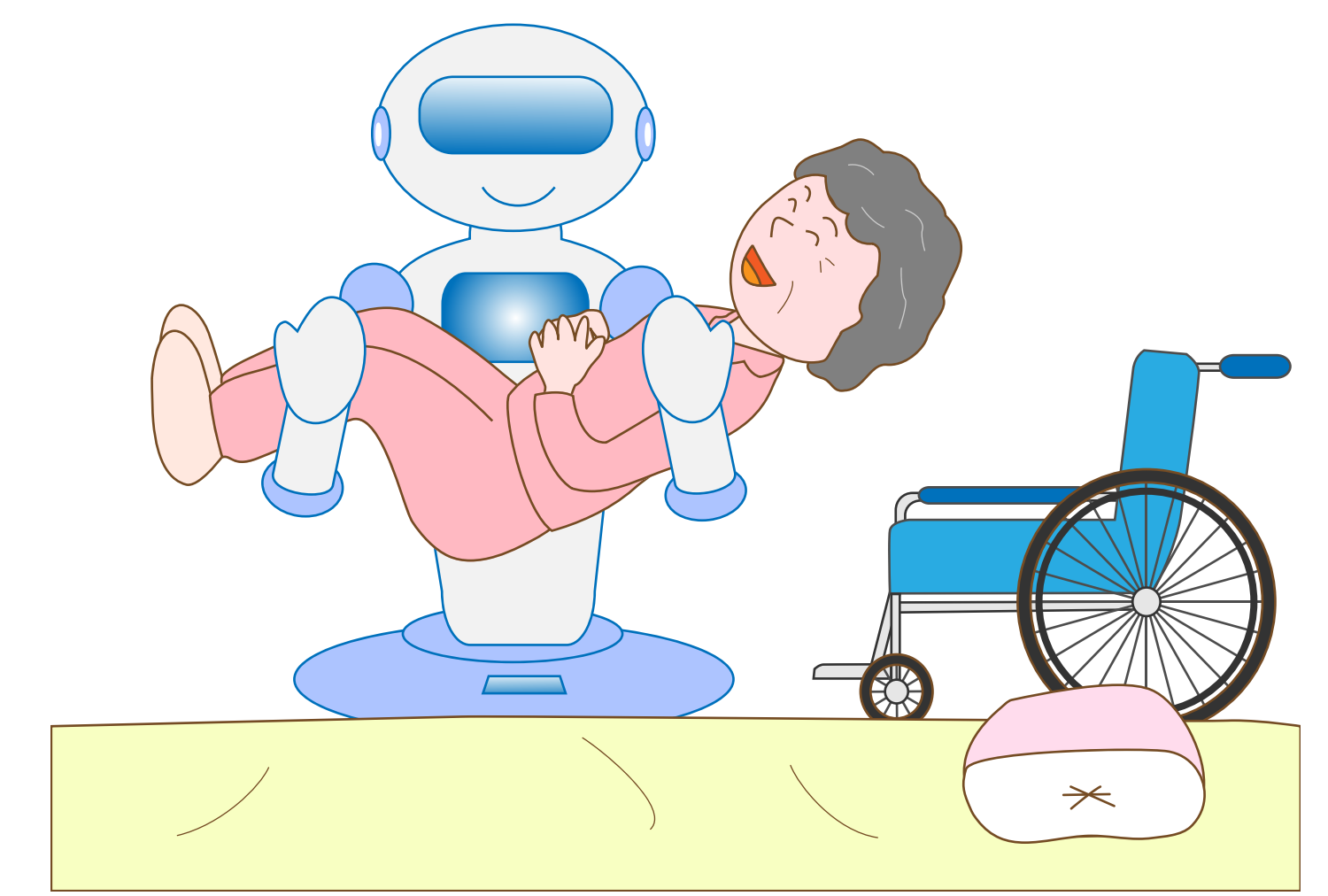
- 介助に対する利用意向を得点化(1~3点)し, 主成分分析を適用
- 第1主成分はテクノロジーに依らない利用意向に関する成分 → 受容性得点



人による介助：1点



人とテクノロジーによる介助：2点



テクノロジーによる介助：3点

■ 受容性得点と個人属性

- 受容性得点の点数から回答者を2群に分類 (高群・低群)
- ロジスティック回帰分析を適用し, 受容性得点に関係がある指標を抽出

世帯年収

主観的健康

SNSの利用

年齢

自動ブレーキ付き
自動車への信頼

オンラインバンキング
システムの利用体験

スマートフォンの
利用

■ 今後の展望

- 受容性に合わせたテクノロジーの導入や推奨, テクノロジーの開発
- 受容性を高める活動
(例: 日常生活で新しいテクノロジーや情報サービスの利用経験を増やす)



連絡先：人間拡張研究センター連携担当
harc-liaison-ml@aist.go.jp